NDC ピクトグラム活用のススメ

藤澤和子、野口武悟、吉田くすほみ

1. 合理的配慮としての NDC ピクトグラムの必要性

2016 年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されて、行政機関等には障害者への合理的配慮の提供が義務づけられた。行政機関等のなかには公立図書館や国公立の大学図書館、学校図書館も含まれる。

合理的配慮とは、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」と定義される（「障害者の権利に関する条約」第 2 条）。つまり、障害者からの意思の表明があった場合、社会的障壁を取り除くために必要な対応を負担が過大になり過ぎない範囲で行うことである。

合理的配慮のあり方については、障害者差別解消法施行前から各方面で検討が進められつつあったが、図書館を利用する知的障害者への合理的配慮については十分とはいえなかった。そのため、筆者らは、2016 年度以降、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成金（科研費）を得て研究を進めてきた。この研究の一環で実施した当事者調査（616 人が回答）からは、月に 1 回以上公立図書館を利用する知的障害者が 40％いること、館内で一番困ったことが「読みたい本がどこにあるのかわからなかった」ことであることなどが明らかとなった[1]。

この困り感への配慮の 1 つとして、図書館の標準的な分類法である日本十進分類法（以下、NDC）を知的障害者にもわかりやすく表現して標示することが有効である。そこで、筆者らは、キハラ株式会社の協力のもと、NDC を表すピクトグラムの検討を進めてきた。

2. NDC ピクトグラムとは

NDC は、さまざまな種類の図書館資料を分類するために重要な分類法だが、大分類から小分類まで、分類概念と分類名が専門的であるため、知的障害者等の認知機能に困難を抱える人々や子どもたちが理解することは難しい。また、多くの図書館で行われている排架標示は文字による標示であるため、文字の読めない人たちが図書館資料を探すための目印として利用することはできない。

このように対象者によっては難易度が高い NDC を、誰でもが見てわかりやすいようにピクトグラムにして構成したものが、「NDC ピクトグラム」である。大分類―中分類―小分類から構成されている NDC を、標示で頻繁に使用される大分類を中心に、視覚的にわかりやすくすることを目指した。

大分類は、中分類と小分類を含んだ大きな概念を代表して表現されているため、大分類のピクトグラムだけで分類内容を表すのは、困難である。そのため、１０の大分類は、各分類ごとに 1 個のピクトグラムで表現し、大分類の意味がイメージしやすいように、中分類から代表的な分類を 2 個か 3 個選んで、大分類に付随するピクトグラムとして構成した。例えば、6 類「産業」は、ものが行き来し流通するイメージを表現した「人がものを受け渡しする」大分類のピクトグラムに、中分類の中から「農業」「商業」「交通」のピクトグラムを合わせた。大分類を正方形、中分類を円形にすることで違いを示している。大分類 1 個と中分類 2 ～ 3 個を合わせた標示は、分類内容の意味を具象的に表現するものである。

大分類の名称についても一部変更した。複数の名前が併記してある大分類は 1 つにした。他にも、わかりやすい名称になるように、3 類「社会科学」は「社会」、4 類「自然科学」は「自然」、8 類「言語」は「ことば」と変更した。

3. ピクトグラムの利用と効果

ピクトグラムとは、ことばの意味を簡潔な絵で表現した目で見ることのできることばの記号である。ピクトグラムのわかりやすさは、文字に比べて、曖昧性がなく意味が明瞭であること、シンボル同士の個々の特徴が明瞭で弁別が容易であること、音読や黙読による命名をしないで意味が瞬時にわかることである[2]。また、どの国籍の人が見ても一目でわかるという利点がある。言語に縛られないというピクトグラムの特徴を活かして 1964 年の東京オリンピックに引き続き、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでも競技名の表記等に活用される予定である。現在ピクトグラムは、障害者、高齢者、外国人、子ども等のすべての人が、安全に健やかに生きられる社会を目指したユニバーサルデザインとして、公共施設や交通標識、安全、禁止等の標示に、広く有効に活用されている。

NDC ピクトグラムは、2005 年に経済産業省が制定した「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則（JIS T0103）」[3]の日本工業規格（JIS）を参考に制作した。JIS 絵記号は、文字や話しことばによるコミュニケーションの困難な人が、ことばの代わりに絵記号を指さしたり手渡して自分の要求や意思を伝える補助代替コミュニケーション手段として制定された。JIS 絵記号のデザイン原則を適用した理由は、ピクトグラムの意味の明瞭度と弁別の容易性、理解の速攻性に優れている利点を有していること、とりわけ黒地の背景に対象を白抜きで表現する組み合わせは、視認性の高さを示すからである[4]。排架標示で用いられることが多いため、遠方からでも識別を容易にする視認性の高さは重要な要素である。そして、さまざまな人が利用する図書館にあって、この色の組み合わせは、弱視や色覚障害の人にも視覚的に弁別しやすいのである。

現在、公共図書館でピクトグラムを活用した事例をいくつか紹介する。

『ようこそ図書館へ』わかりやすい図書館利用案内 [5]

誰でもが図書館を利用しやすくなるために作った案内冊子

吹田市立中央図書館（大阪府）

『LL ブックコーナー』の標示と LL ブックの分類ラベル

文字を読んだり内容を理解することの難しい人たちに読みやすくわかりやすい本を集めたコーナー

吹田市立中央図書館（大阪府）

桜井市立図書館（奈良県）

桜井市立図書館（奈良県）

『よむ・きく・やすむへや』個室の標示

本を読んでもらう、マルチメディア DAISY を視聴する、クールダウン等の目的で使用できる個室

桜井市立図書館（奈良県）

4. NDC ピクトグラムの活用

NDC ピクトグラムの活用例を紹介する。

①書架への標示

公共図書館、大学図書館、学校図書館等の書架に、NDC ピクトグラムを標示して、図書館資料の排架場所を明示する。ピクトグラムで示された NDC は遠くからでも見つけやすく、読みたい本を探しやすくする。読むだけでなく本を探すことも、読書の楽しみの 1 つである。また、日本語を読むことが難しい外国人にとっても、図書館を活用しやすくする。

②本の背に貼る分類ラベル

図書館の本の背には、分類記号を記載したラベルが貼られている。数字を用いて日本十進法の分類を示しているが、ラベルの数字から分類内容をイメージすることが難しい人もいる。ピクトグラムのラベルを貼った図書館資料であれば、どのようなジャンルであるかがイメージしやすい。

③小学校、中学校、特別支援学校の授業での使用

子どもたちに NDC ピクトグラムを使って、図書館資料の分類や排架について教えると、分類の意味や内容が理解しやすく、本や図書館への関心につながっていく。

④NDC ポスターの館内掲示

NDC ピクトグラムを使い始める時は、必ず NDC ピクトグラムのポスターを利用者がよく見える所に貼っておく。そうすることで NDC を知らなかった人たちも分類の内容や意義を学び、関心を深めることができる。

今では誰もが目にする非常口のピクトグラムも、1979 年に国内標準になるまでは「非常出口」と文字だけで表示されていた。今までは文字と数字での表示だった NDC も、これからはピクトグラムに変わっていくだろう。誰もがわかりやすく利用しやすい図書館を目指して、NDC ピクトグラムを活用していこう！

藤澤和子（ふじさわ　かずこ）
大和大学保健医療学部教授、博士（教育学）、専門は言語コミュニケーション障害学・特別支援教育、平成 15 年度財団法人日本規格協会「コミュニケーション支援用絵記号標準化委員会」委員として JIS 絵記号制定に参与する。著書に『障害のある人たちに向けた LL マンガへの招待―はたしてマンガはわかりやすいのか』（共編著、樹村房、2018 年）、『視覚シンボルによるコミュニケーション支援に関する研究―日本版 PIC の開発と活用を通して』（風間書房、2011 年）等がある。

野口武悟（のぐち　たけのり）
専修大学文学部教授、放送大学客員教授、博士（図書館情報学）。専門は図書館情報学、情報アクセシビリティ。（一社）日本子どもの本研究会会長、（公社）日本図書館協会障害者サービス委員会委員などを務める。著書に『図書館のアクセシビリティ：「合理的配慮」の提供へ向けて』（共編著、樹村房、2016 年）、『多様性と出会う学校図書館：一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ』（共編著、読書工房、2015 年）等がある。

吉田くすほみ（よしだ　くすほみ）
大阪特別支援教育振興会、言語聴覚士、知的障害・自閉症児者のための読書活動を進める会会長として LL ブック（やさしく読める本）セミナーと LL ブックフェアを十数年間主催する。著書に『LL ブックを届けるーやさしく読める本を知的障害・自閉症のある読者へ』（分担著、読書工房、2009 年）『サウンズアンドシンボルズ』（共著、南大阪療育園、1985 年）がある。

参考文献・脚注

[1] 藤澤和子・野口武悟「知的障害者を対象とした公共図書館の利用実態とニーズ調査」『2017 年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』，2017 年，p.63-66.
[2] 高橋雅延「視覚シンボルと現代社会」清水寛之（編），『視覚シンボルの心理学』ブレーン出版 ,2003 年 ,p.65-84.
[3]JIS T0103「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則」財団法人日本規格協会 2005 年
[4] 藤澤和子「コミュニケーション支援用絵記号の標準化について - 意義と課題」『発達人間学論叢 (大阪教育大学発達人間学講座),7』2004 年 ,p.51-59.
[5] 近畿視覚障害者情報サービス研究協議会 LL ブック特別研究グループ制作のひな型をもとに制作された。

NDC Pictogram

日本十進分類法ピクトグラム

0	General works 総記	総記	じ典	新聞	図書館
1	Philosophy 哲学	哲学	祈り	こころ	
2	History 歴史	歴史	地理	紀行	
3	Social 社会	社会	政治	経済	教育
4	Natural 自然	自然	生物	医学	化学
5	Technology 技術	技術	建築	工業	生活
6	Industry 産業	産業	農業	商業	交通
7	The arts 芸術	芸術	美術	音楽	スポーツ
8	Language ことば	ことば	日本のことば	世界のことば	
9	Literature 文学	文学	日本の文学	世界の文学	

「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方に関する研究」JSPS 科研費 JP16K00453 の助成を受けたものである。
公共図書館における知的障害者への合理的配慮研究委員会制作・キハラ株式会社制作協力

KIHARA

2018 年 10 月 30 日発行